

# 箱根 レベル4以上も想定

## 県と町 避難計画策定へ

### 夏休み控ええ誘客にも力

大涌谷の噴火警戒レベルが3（入山規制）に引き上げられたことを受け、県は箱根町と協力し、地域の防災計画や住民の避難対策を強化する。万一の事態に備え、これまで想定していなかった警戒レベル4（避難準備）以上を含めた計画の策定に早期に取り組み考えだ。さらに夏休みを控え、観光業への影響が懸念されるため、誘客にも力を入れる。

（岩島佑希、坂場香織）

「警戒レベルが4以上に引き上げられた場合の避難計画をこれから作成する」というのは本末転倒だ」

1日の県議会防災警察常任委員会で、公明党の渡辺均県議はレベルが4（避難準備）や5（避難）に引き上げられた際の避難計画がないことに、疑問を呈した。自民党の山本哲県議も「万一に備えてしっかりと準備

をしておくことが重要だ」と訴えた。

同町が昨年7月に修正した地域防災計画や、県と同町、気象庁などでつくる協議会が、御嶽山（長野・岐阜県境）の噴火災害を教訓にまとめた「大涌谷周辺の避難誘導マニュアル」は、想定対象がレベル1〜3にとどまる。

県などはこれまで、レベル4以上に対応した避難計画の作成を秋頃としていたが、この日の委員会では早期作成を求める意見が相次

ぎ、杉原英和・県災害対策課長は「少し作業を早める」と前倒しする方針を示した。

さらに県は同町と連携し、住民だけでなく、ホテルや旅館の観光客も含めた避難計画作りにも着手する。例えばレベル5の場合、火口から約2キロ以内には大きな噴石が飛散したという過去の事例も踏まえた内容にするという。

同町では今回のレベル引き上げで、観光列車が運休するなどの影響が出てい

箱根登山鉄道は、今月5日までの予定だった特別列車「夜のあじさい号」の運行を中止すると発表した。また、火口から半径1キロ以内が立ち入り禁止となった

ため、運休中の箱根ロープウェイの早雲山駅から姥子駅付近までの県道約3キロが新たに通行止めになり、箱根ロープウェイの代行バスと、区域内を通る伊豆箱根バスの路線バスも運休となった。

秋山智徳・同町観光課長は「箱根のゴールデンルートを結ぶことができず、残念だ」と悔しさをにじませる。今後、町では宿泊施設や交通機関などへの経済的な影響を調査する。

一方、県は、国の交付金を活用して発行する「かながわ旅行券」の発売開始を3日に控え、風評被害の払拭に懸命だ。県観光企画課は「立ち入り禁止は火口から半径1キロという限られた地域で、ほかの地域は安全

だ」と強調。和田久・県安全防災局長はこの日の同委員会でも、旅行券と合わせて、県内の観光施設などで使える「お楽しみクーポン」の販売もPRし、「風評被害ゼロを目指した対策を進める」と述べた。



噴火警戒レベルが3に上がり、新たに通行止めとなった県道の出入口で警戒する箱根町職員（1日午前、箱根町で）＝菅野靖撮影



閑散とした箱根湯本駅前（1日午後、箱根町で）＝丹下信之撮影